



タイの首都バンコク中心にある財務省の敷地に、同国最大規模のコンベンションセンター「クイーンシリキットナショナルコンベンションセンター」を建て替える工事。RC造（屋根S造）地下2階地上3階建て延べ28万6627平方メートルの規模。外周部躯体を地下・地上ともに先行施工した上で、中央部の大屋根をスライド工法で構築。無柱空間の展示ホールを生み出した。大屋根工事と下部地下工事を同時並行でし、工期短縮を図った。

建て替え後のクイーンシリキットナショナルコンベンションセンター

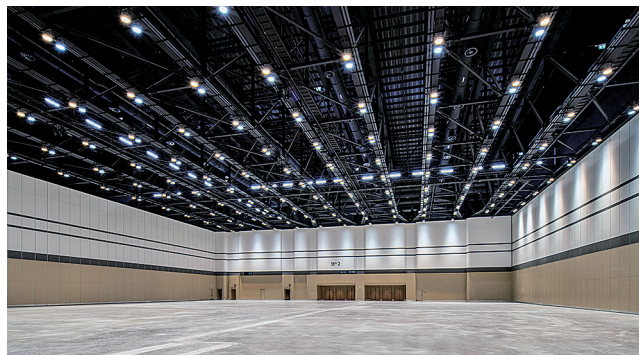
2022年11月に同国で開催された「アジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議」の会場を

工法見直しコロナ禍の遅延回復

クイーンシリキットナショナル コンベンションセンター 建て替え工事 (タイ)

整備するため、建て替えプロジェクトが開始した。既存のQSNCCはタイ初の多目的コンベンションセンターとして、約30年にわたる国際会議などの開催場所となり、同国のランドマーク的存在だった。老朽化対策と敷地の効率利用のため、19年9月から既存建屋を解体、20年1月に本体工事に着手した。

新しいQSNCCは、中央最上階に最大110メートル×198メートルの無柱空間を持つ複層の展示ホールと、外周に大小50を超える会議室を持つ。展示ホールは、内部可動間仕切りを利用すると4分割して使用できる。建物の意匠デザインは「タイらしさ」がテーマ。1階にある本会議場の内装は同国の伝統的な装飾をモチーフにデザインした。ホ



無柱空間の展示ホール

ンチャキティ公園」に隣接。公園側のガラスファサードには「APEC 2022」の文字を掲げている。

工期は32・5カ月。この間、コロナ禍による労働者宿舍と建設現場の閉鎖や、作業員の移動制限の命令を受け、工程が遅延した。徹底した防疫対策を講じるとともに、施工面で大屋根スライドスリップの見直しや、省人化工法採用による工程回復策が奏功。遅延を回復し、当初の工期通り竣工した。

22年11月、各国首脳と関係者5000人以上が参加するタイAPEC会議が無事開催された。

海外建設協会（海建協、佐々木正人会長）の「第2回OCAJIプロジェクト賞」の受賞8作品を詳報します。

